

一宮市制施行 100 周年記念事業準備委員会 第 1 回会議 会議録要約

会議名：一宮市制 100 周年記念事業準備委員会設立総会・第 1 回会議

開催日：令和元年 5 月 29 日（水）16 時 30 分～17 時 30 分

1. 市長あいさつから

100 周年を迎えるにあたっての、記念事業における 3 つの考え。

- ・一過性にならず、次の 100 年にもつながるような事業を進めていきたい。
- ・中核市移行により市民のみなさんのより身近なところで多くの責任を担うことになる。その中で福祉・健康・衛生など、すべての活動もまず健康であることが基本であり「健康」ということをキーワードとして進めていきたい。
- ・従来の形を踏まえ、民間企業とも連携しながら、新しい時代に則した多様性のある市民参加を進めていきたい。

2. 基本方針（案）についての質疑応答から

- ・実際には専門委員会が事業等の実施や検討を行い、準備委員会は承認する形になるのか。
⇒（事務局回答）専門委員会の皆さんのご意見をいただいたものにつき、検討いただくことになる。
- ・専門委員会はいくつ作られるのか。
⇒（事務局回答）広報関係や事業実施関係など、2 つから 3 つを想定している。

3. 委員の意見交換から

- ・単なるイベントで終わらせるのではなく、地域産業の活性化や今後の市の発展を見据えた工夫が必要ではないかと思う。
- ・若い人たちが、よりこのまちを愛せるようなまちづくりの活動を、100 周年を契機として加速するものになればと思う。
- ・次世代のことが中心になってくると思うので、若い人や学生さんたちの声も聞けるよう、専門委員会の人選をお願いしたい。
⇒（事務局回答）「市民委員のうち少なくとも 1 人は 30 歳以下」「専門委員会の会議は、平日夜または土日開催」など、若い人にも参加しやすいよう考えている。
- ・100 年先 200 年先につながるものが残せたらと思う。
- ・市内に住む子どもたちからの意見も取り入れられる仕組みづくりをお願いしたい。
- ・ソーシャルとビジネスの両方を考えている、若い学生のような方も増えてきた。そういう方々も 100 年に取り込んでいけたらなと思う。

- ・若い世代が置いてきぼり、無関心になってしまわないよう、未来に向かってというもの、未来志向の事業を考えていただきたい。
- ・年代よっていろんなアイデアがあると思う。各年代のアイデアを吸い上げられるような、若い人たちの声も届くような形を作ってほしい。
- ・定住人口だけでなく、交流人口にも注目したい。産業や観光など魅力あるまちとして、一宮市に愛着を感じてもらい、一宮市って良いところ。卒業しても一宮で働こう。将来は一宮市に住もう。と思ってもらえると良い。
- ・真清田神社と協力して商店街に人を呼び、交流人口増加を目指したい。
- ・木曽川は一宮のひとつの財産だと思う。木曽川の水辺や平坦な地形を活かした自転車やウォーキングなどの健康増進事業が可能なのではないか。
- ・DMOとかまちづくり会社のような、一宮市に新しいプラットフォームみたいなものがあると良いと思っている。中からも外からも人やお金が集まるセンターの様な仕組みを、100周年を機に若い人たちに残していけたらと思っている。

4. 今後のスケジュールについて

- ・基本方針は、7月3日の専門委員会で委員に報告。
- ・キャッチフレーズは、7月にワークショップを行い、9月に決定・公表予定。
ワークショップ日程 7月24日（水）19時～20時30分
7月31日（水）19時～20時30分
- ・ロゴマークは、10月から公募開始、市民投票を経て、2月下旬に決定・公表予定。